

認定 NPO 法人アサザ基金

第 15 期（2013 年度）事業計画

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

第 15 期（2013 年度）事業計画

—目 次—

湖の再生事業	3-4
環境教育事業	4-5
水源地保全事業	5-8
地域循環型社会構築に関わる事業	8-9
複数の事業にかかわる助成	9-10
その他の事業	10
第 15 期事業年度活動予算書	

アサザプロジェクト第15期事業計画

霞ヶ浦の放射能汚染問題は予断を許さない状況が続いています。今年度も市民モニタリングや署名活動を継続し、行政や市民団体等に協力を要請しながら新しい公共の理念に基づく新体制を構築できるよう努めるとともに、「常陸川水門の柔軟運用」や「霞ヶ浦をラムサール条約登録湿地」実現に向けて働きかけを強めていきます。また、認定NPO法人としての寄附体制を確立し、新規事業を開拓していきたいと考えています。今年度もご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

● 湖の再生事業

霞ヶ浦での自然再生事業は、従来の公共事業の発想を根本的に転換する意味で重要な位置づけにあります。それは、既存のシステムや構造に依存する側からの強力な抵抗を覚悟しなければ取り組めません。それらの抵抗勢力に対して、アサザ基金は創造的な取り組みによって新しい現実を社会に生産しつづけることで対抗していきます。従来の行政依存型や縦割り型の公共事業から脱却し、新たな発想で湖の再生を実現していくことがアサザプロジェクトの使命です。アサザ基金では、流域に展開し続ける市民型公共事業の起点として、市民参加による霞ヶ浦の植生帯再生と生物多様性の保全、住民と霞ヶ浦の絆の再生、小学校での環境教育、政策提言などを行います。

○ 植生帯復元地区への水生植物の植付

植生帯復元事業として、霞ヶ浦・北浦に造成された11ヶ所の浅瀬や他の再生地を利用し、植生帯再生を目指して、アサザ、ヨシ、マコモ等の植付けを行います。また「アサザの植付」を里親、学校や企業ボランティアにご協力いただいて実施します。弊基金主催の「アサザの植付会」や「アサザのお花見会」は、一般市民、里親の参加を促すため公募で実施していきます。

○ アサザの系統保存と里親

アサザはさらに絶滅の危機に追い込まれています。アサザの系統保存など植物の保存育成場所である学校ビオトープや流域各地のアサザステーション等の環境維持を行います。

アサザの里親活動は、学校や団体向けの系統保存株の株分けを中心に進めます。株の配布は、1) 学校等の団体、2) 流域住民、3) 既に苗を戻したことのある里親かつ会員であること、4) 里親誓約書を取り交わした団体、個人のいずれかの条件を満たす方（団体）で実施します。

○ 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業

福島第一原発の事故により、環境中に放出された放射性物質が地表から56本の流入河川へと入り、時間の経過とともに霞ヶ浦・北浦へ流入することが懸念されます。しかし、依然として行政の対応は不十分です。私たちは市民団体や生協、行政等に協力を呼びかけて新しい公共の理念に基づき除染等の対策を進めるために政策提言や市民モニタリング、署名活動を行っていきます。

○ 霞ヶ浦の再生に向けた政策提言

霞ヶ浦を再生するには社会システムの転換が必要です。私たちはアサザプロジェクトの実績と独創的な発想を活かした政策を立案し、各方面へ提案していきます。逆水門の柔軟運用や水位管理、放射能汚染対策、ラムサール条約登録など、霞ヶ浦北浦の環境再生に向けた実現可能な提案を市民団体や漁業者団体、農協などと協力して粘り強く進めていきます。アサザプロジェクトは創造的な取り組みを通して新たな現実を生み出し、出口のない制度論的循環論法からの脱却を促します。

○ 水郷トンボ公園の維持管理

昨年度に引き続いて、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会から委託を受け、トンボ公園内の維持管理を潮来ジャランボプロジェクト実行委員会と連携して進めていきます。今年度は、より多くのボランティア参加を募り、水郷トンボ公園の機能向上にむけて努力していきます。業務委託費は400,000円。

1. 業務内容

日常管理（開園作業、冬越し作業、耕起、植え付け、池除草、江間整備）、不定期管理

田んぼ管理（田植え、草取り、稲刈り、脱穀、乾燥、粃すり）
イベント開催、広報宣伝

2. 事業計画

開園作業（4/28）、閉園作業（11月）、
定期除草（5～10月に毎月実施 ※田植え・稲刈り等の作業日に併せて実施する）
田んぼ管理（田植え5/11、稲刈り9月）
ボランティアの募集（一橋大学5/11、利根コカ・コーラボトリング労働組合7/7、
レイクエコー7/7等）
掲示板をより良く活用するための工夫

○ 駅ビオトープの維持管理

JR常磐線石岡駅、高浜駅2ヶ所の駅ビオトープのうち、石岡駅ビオトープは再造成を検討しています。
高浜駅ビオトープは東日本大震災の影響で存続未定となっています。

● 環境教育事業

アサザ基金では多様な課題を総合的に解決へと導くことが出来る創造的な人材の育成を目指しています。1998年に霞ヶ浦流域で始まった環境学習（出前授業）は、全国に広がり毎年1万人以上の子ども達が参加しています。今年度も霞ヶ浦流域を中心に、全国各地で地域に根ざした環境学習プログラムを進めていきます。企業との協働による環境教育事業も継続します。

○ 霞ヶ浦流域内での環境学習

牛久市内の小中学校を除いた霞ヶ浦流域内の小中学校でも、総合学習の時間を活用して環境教育を進めていきます。活動資金は三井物産環境基金や「セブン-イレブンみどりの基金」、グリーン基金から助成を頂きます。希望校にはビオトープを活用した環境学習や地域活性化につながるまちづくり授業を提案していきます。また、学校ビオトープのメンテナンスも必要に応じて実施します。

○ 学校ビオトープから始まるまちづくり事業

（牛久市教育委員会との協働事業 2004年度から継続）

牛久市内の全小中学校を対象に総合的な学習の時間を活用して環境保全や循環型社会をテーマに学習プログラムを展開していきます。牛久市より事業委託料として935,550円をいただきます。

事業計画

- （1）まちづくり学習プログラムの作成と実施
- （2）学校支援を目的とした実行委員会の定期的開催
- （3）地域への学習成果発表の実施
- （4）事業前後の意識調査の実施、成果の公表
- （5）学校での成果を活用し、より地域に波及する事業運営を行います

○ 霞ヶ浦流域外での環境学習

- ・ 秋田県では、八郎潟流域と仙北地域で地域活性化をテーマに環境教育を継続します。
- ・ 沖縄県の宮古島や池間島では、環境保全をテーマに環境学習を継続します。
- ・ 宮川上流の過疎地、三重県大紀町立七保小と大茶のブランド化をテーマに授業を継続します。今年度は新たに大台町立宮川小学校が加わり、過疎地の活性化と環境保全の一体化を目指す学習を行います。
- ・ 被災地宮城県南三陸町伊里前小学校で、昨年度に引き続き震災後の復興をテーマに環境学習を継続します。
上記の学習費用は各自治体や地球環境基金からの助成で充当します。

○ わくわく子どもの池プロジェクト

(NECキャピタルソリューション(株) 協働事業 2007年度から継続)

NECキャピタルソリューション(株)と協働で進めている「わくわく子どもの池プロジェクト」は、今年で7年目となります。支援を希望する小中学校にビオトープを造成し、アサザプロジェクトの学習プログラムを提供します。BT(子どもの池)が地域の人に関わる場、生きものが集まる場となり、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりを企業の社会貢献の一環として行います。環境保全にとどまらない、総合的な地域づくりを進めます。

事業計画

- (1) 参加校：NECキャピタルソリューション(株)支店のある地域から新たに4校程が参加。
- (2) 学習基本カリキュラムは新規校対象に下記の5回を実施予定
 - ・ 生きものとお話しよう
 - ・ 学校の生きものとお話しよう/学校の周りの生きものの道を調べよう
 - ・ ぼくたちの考える生きものの道づくり(提案発表)
 - ・ 生きものの道を作ろう(ビオトープ造成または改修)
 - ・ 生きものの道を調べよう(事後調査)

● 水源地保全事業

○ NECたんぼづくりプロジェクト with アサザ基金

(IN 東田中 NEC CSR・環境推進部 社会貢献室協働 2004年度から継続)

(IN 上太田 NEC CSR・環境推進部 社会貢献室協働 2010年度から継続)

「NECたんぼづくりプロジェクト with アサザ基金」は、石岡市と牛久市で実施している谷津田再生事業を通して、社員の環境意識啓発を目的とした水源地を汚染しない農業(酒米栽培等)体験で環境意識の向上を図ります。また、環境センサーを活かしたアプリケーション開発の実験フィールドとしても利用します。企業(社員啓発、新技術開発)、地元(地域振興)、NPO(水源地保全)とそれぞれの目的を達成することで、共通の目標「トキが舞う谷津田」の実現を目指します。収支計画は、実施実績にもとづいた費用積算のため未定です。

1. 業務内容

- (1) NEC社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- (2) プログラムの事前準備及び当日運営
- (3) 谷津田の維持、管理
- (4) 谷津田の再生を評価する為の調査
- (5) その他関連・付帯する業務

2. 事業計画

- ・ 東田中のたんぼでは2回の全体イベントと12回の達人コースを予定しています
田植え(5/25) 稲刈り(10/12)
- ・ 上太田のたんぼでは4回の全体イベントと14回の達人コースを予定しています
草取り(7/20) 稲刈り(10/19) 脱穀(11/9) 復田(2/15)
- ・ 東田中、上太田の共同イベント
仕込み神事イベント(1/18) 新酒蔵出し(3/8)

○ 三井物産谷津田再生プロジェクト(三井物産(株)委託事業 2007年度から継続)

牛久沼の水源地である谷津田の復元と再生を、社員の環境意識啓発事業という位置づけで行う「三井物産谷津田再生プロジェクト」として実施し、水源地を汚染しない農業(稲作等)体験で環境意識の向上をねらいます。また、谷津田でのプログラムを通して、生物多様性の保全に向けた取り組みも行っています。

1. 業務内容

- (1) 三井物産役職員およびその家族を対象とした米づくりを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) プログラムを実施する谷津田の借り上げ手配
- (3) 谷津田における基盤整備、米づくり、そのほか維持管理
- (4) 谷津田でつくる米を使用した酒醸造の委託手配
- (5) 個別プログラムの実施
- (6) そのほか上記各項目に関連する業務

2. 事業計画

田植え(6/1) 草取り① 草取り②・ホタル観察 稲刈り
酒仕込み 新酒蔵出し

3. 2013年度は5,806,500円の予算で実施してまいります。

○ UBS RICE Project UBS証券会社との協働事業

(UBS証券会社委託 2008年度から継続)

RICE (Rural Investment in the Community and Environment) Projectでは、霞ヶ浦・北浦の水源地・鹿嶋市と潮来市の谷津田をフィールドとして、地域の方々と協力して環境保全の米作りに取り組んできましたが、潮来市清水地区が高速道路建設予定地となってしまったため、今年度からは鹿嶋市山之上のみでの活動となります。山之上谷津田再生協議会等地元のご支援をいただきながら、保全面積を拡大して活動を継続していきます。

業務委託費6,510,000円で、下記の事業を実施します。

1. 業務内容

- (1) 棚田・谷津田の維持管理、生物調査
- (2) 子どもたちへの環境教育
- (3) 棚田・谷津田での米作り(田起し、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅づくり、日本酒醸造)
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業計画

鹿嶋市山之上 田植え・自然観察(5/19)、草取り・自然観察(7/20)
稲刈り・自然観察(10/6)、もちつき・蔵出し(1/25)
*蔵出しは潮来市の愛友酒造(株)

○ ホギメディカル谷津田再生プロジェクト ホギメディカル・牛久市との協働事業

(株)ホギメディカル委託 2009年度から継続)

牛久市のホギメディカル筑波工場に隣接する荒れてしまった谷津田を、新たな価値を作り出しながら再生し、昔ながらの田んぼづくり、谷津田の管理を行っていく谷津田再生プロジェクトを企業、市役所、NPOが協働で進めます。水源地「谷津田」のシンボルの一つとなっているホタルを課題解決の指標として、健全な水循環の復活、地域文化の振興、牛久の原風景の保全、自然生態系の再生・保全に取り組めます。

1. 業務内容

- (1) ホギメディカルの役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) 谷津田における維持管理、基盤整備、生物調査、米作りの業務
- (3) 個別プログラムの実施
- (4) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業計画

田植え・自然観察（5／18）、草取り・自然観察（7／13）

稲刈り・自然観察（10／26）、酒仕込み（2／8）、新酒蔵出し（3／22）

泥深く、稲の栽培が困難な場所があるので今年度からそのような場所は溜池として利用し、水田をより多様な環境にしていく計画です。

3. 収支計画は現在、契約手続きをすすめているため積算中です。

○ 損保ジャパン環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした循環型社会構築（通称：かっぱんだ）プロジェクト（2010年度から3年目）

損保ジャパン環境財団「CSOラーニング制度」から支援を受ける学生を対象に、2010年度に再生した水源地（かっぱん田）をフィールドとした地域との連携や新たなつながりの構築、収穫したもち米を使用した製品の商品開発、協働パートナーとWinWinの関係になるための企画作りを学生が主体的に行えるように支援していきます。

協賛金 821,370円を下記の活動に充てる予定です。

事業計画

(1) 対象地 茨城県牛久市遠山

(2) 事業内容 ・学生による企画作成、マーケティングの支援・調整

・学生と協力して行う農作業イベントの準備・調整・運営支援

田植え(5月)、草取り合宿(7月下旬)、稲刈り(9月下旬)、収穫祭(冬)

○ レンコンづくりによる谷津田再生事業（仮称）

（NEC フィールディング株式会社委託 2012年事業開始 2年目）

このプロジェクトは霞ヶ浦を代表する作物である「レンコンづくり」を通じて谷津田の保全を目指す事業です。霞ヶ浦のレンコンは全国的に知られる作物である一方、湖の水質を悪化させる富栄養化物質をレンコンづくりのための水田（ハス田）から流出させていると近年指摘されています。そこで、本プロジェクトは定期的な社員ボランティアの参加による無化学肥料（可能な限りの低肥料）無農薬栽培によるレンコンづくりを行うことで、まだ誰も取り組んでいない「霞ヶ浦の環境保全に寄与するレンコンブランドづくり」に挑戦します。予算作成中です。

2013年度実施計画

2013年4月 ハス田の再生仕上げ

5月 種バスの植え付け

以降、毎月水源地整備作業や生物調査、くさとりなどの作業を実施

2014年3月 ハスの収穫

○ 「UBSの森 霞ヶ浦水源の森づくり」UBS証券会社・牛久市との協働事業

（UBS証券会社の寄付による牛久市委託 2009年度から継続）

里山の再生は、霞ヶ浦流域の水源地の保全・再生を図る上で、重要な役割をもっています。水源地である谷津田の周りには林があり、林はその水源を涵養する機能を持っています。このような本来の里山づくりを行うことを目的に、牛久市において霞ヶ浦水源の森づくりを行います。この取り組みは、水源地の保全・再生、里山の原風景の再生、生物多様性保全、地域の活性化、環境教育の場の提供、地球温暖化防止など都市と農村をつなぐ新しい循環型のモデル事業となっています。

この事業はUBS証券会社が牛久市に寄付（ふるさと納税制度を利用）し、牛久市がアサザ基金に委託するかたちで実施されます。

業務委託費 358,224円で、下記の事業をすすめます。

1. 業務内容

(1) 植栽維持管理

(2) 植栽後植生・生物調査

2. 事業計画

植生・生物調査 各1回

植栽維持管理 2009年植樹地 草刈り(全面1回、樹木回り2回)、施肥3回

2010年植樹地 草刈り(全面3回)、施肥3回

○ UBS Bee プロジェクト (UBS 証券会社の寄付による事業 2010 年度から継続)

UBS 証券会社の寄付により里山の再生を行っている「UBS の森」において、ニホンミツバチが広がっていく環境づくりを進めていくことで、UBS の森を拠点とする周辺地域を巻き込んだ生物多様性保全や森と人々との交流を創出します。さらに、ミツバチを通じて里山を再生するプロセスを都市における里山再生と共有することで、都市と農村に新たな結びつきを創り出します。寄付金を活用して、下記の事業を進めていきます。

1. 事業計画

(1) ミツバチの蜜源となる林床植物の植え付けなど、社員家族による里山の手入れを行うイベント実施

4月13日 土壌改良・蜂蜜料理・飼育場見学・篠竹刈り

8月31日 草刈り・採蜜・生物調査

(2) 植生/生物調査

(3) ハチミツを使った里山スイーツの企画会議実施

(4) 環境学習の場として UBS の森を活用

(5) 地域住民によるミツバチのモニタリング調査

○ 霞ヶ浦・北浦の水源地となる里山の保全事業 (1997 年度から継続)

霞ヶ浦・北浦に良質な水を供給するために、荒廃した谷津田や周辺森林の保全に努めています。下草刈りや間伐などの森林管理作業にボランティアを募り、体験事業「一日きこり」を10月から3月まで毎月1回実施する予定です

● 地域循環型社会構築に関わる事業

○ 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業

湖と漁業・農業・流通業・地場産業・住民をつなぎ、経済活動の中に環境保全の働きを組み込んだモデル事業として、アサザプロジェクトの魚粉事業は外来魚の水揚げが本格的に行なわれてからは満6年がたちました。(北浦・霞ヶ浦環境パートナーシップ市民事業が結成されてからは7年)

モノとお金の新しい流路が立ち上がり、湖がよるこぶ野菜たちも店頭ではすっかりおなじみの顔になりました。商品アイテムは周年栽培のキュウリの他、多品目化を引き続き進めていきます。

昨年は福島原発事故後の放射能汚染の影響で外来魚の水揚げが中止となりました。当面はストックしてある魚粉を野菜の肥料として活用します。JA やさと・生産者とも協働で、新たな発想での湖が喜ぶ野菜たちのブランド化を進めていきます。

○ 「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」

キャノンマーケティングジャパン株式会社協働事業 (2009 年度から継続)

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、福祉作業所による生産への協力、廃食油のBDF化と利用推進等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを昨年度から進めてきました。霞ヶ浦流域の再生活動によってできる様々な産品を組み合わせ、霞ヶ浦流域の再生活動によってできる様々な産品を組み合わせ、新しいものづくりにつながる取り組みを進めていきます。

プロジェクト運営費とプログラム実施費等として1,500,000円を支援いただきます。

○ 「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」

日立化成工業株式会社協働事業 (2012年度から継続)

地域の伝統を生かした霞ヶ浦流域の自然再生、そして地域活性化を図る「しょうゆづくり」の取り組みを引き続き行います。耕作放棄地を再生し大豆づくり、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、小中学校との協働によるしょうゆのブランド化授業の実施、福祉作業所による包装への協力等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めていきます。この各段階に社員ボランティアが参加し、事業を進めていきます。

2年目となる2013年度は1年目に仕込んだ醤油の醸造期間で、その間を活用して、小中学校等と連携した醤油のブランド化の学習に畑での取り組みをリンクさせた活動を進めていきます。プロジェクト管理運営費や醤油醸造委託費など5,455,000円を支援いただきます。

○ 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 美浦工場が取り組む

花畑プロジェクトへの協力 (2011年度から継続)

日本テキサス・インスツルメンツ美浦工場では近接地にある耕作放棄地を再生し、霞ヶ浦の外来魚でできた魚粉を活用し、花畑を作り、その成果を活用して地域貢献・環境保全を行っていくプロジェクトを継続します。アサザ基金はその取り組みに賛同、協力します。

● 複数の事業にかかわる助成など

○ 「アサザプロジェクト～環境を機に活性化する地域社会」

(三井物産環境基金助成事業 助成期間：2012年10月～2013年8月)

事業計画

放射能汚染された学校ビオトープ池の再造成

牛久市内などの高濃度の放射能汚染を受けた学校ビオトープを再造成する活動を行います。学習の起点となるビオトープを使用できるようにすることで、環境学習の充実を図ります。除染事業などとの関連が高く、関係者間での調整が必要で、慎重に活動を進めていきます。造成にかかる工事や打ち合わせなどの人件費などに前期から繰り越した1,000,000円をあてて活動を行います。

○ セブン-イレブンみどりの基金より「継続プロジェクト助成」

(助成期間：2012年3月1日～2015年2月)

セブン-イレブンみどりの基金から、人件費と霞ヶ浦流域における環境学習事業等へ年間3,000,000円の助成をいただきます。ネットワーク展開の基盤となる組織運営を充実させるとともに、霞ヶ浦流域における環境学習活動費として活用致します。

○ 東京電力株式会社社員受け入れ

平成16年度から東京電力株式会社の社会貢献の一環として、派遣社員1名を9月30日まで受け入れます。

(主要内容)

派遣期間	平成25年4月1日から平成25年9月30日
勤務内容	・水源地保全の酒米づくり
	・アサザなどの植生作業補助
	・雑木林の手入れ作業補助
	・その他当法人の事業に付帯する一切の業務補助

○ インターン生の受け入れ

アサザプロジェクトは若者の人材育成に力を入れています。損保ジャパン環境財団CSOラーニング制度から今年も数名受け入れるとともに、他団体の受け入れに協力します。

● その他の事業

○ 水源地再生によるオリジナル地酒「広がれあさぎの夢」の流域ブランド化

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、「広がれあさぎの夢」が2つの酒蔵（白菊酒造<石岡市>、愛友酒造<潮来市>）で製造、カスミやジャスコ土浦店で販売されています。今年度も引き続きブランド化を進めながら、より多くの方々に購入していただける仕組みづくりも検討していきます。

○ 霞ヶ浦再生ブランド 「湖がよろこぶ煎餅プロジェクト」

水源地保全事業の酒米作りから出来た米粉の他、原料であるもち米も、谷津田での無農薬栽培によるものを使用して、霞ヶ浦のザザエビを用いた霞ヶ浦再生ブランド「湖がよろこぶ煎餅プロジェクト」を推進します。生産拡大に向けた福祉作業所との連携も引き続き行っていきます。さらに、アサザプロジェクトと協働中の他企業との連携おこなうことで、社会的にも付加価値の高い商品を目指します。

○ 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト（2009年度から継続）

原宿・表参道という大都市の中に、神宮の森から広がる風や生きものなどの自然の恵みを活かしたまちづくりを小学校や地元商店街の協力を得ながら進めていきます。

○ オオヒシクイ米の販売事業

昨年ヒシクイ保護基金から引き継いだ、自然保護の産直米販売事業「オオヒシクイ米の販売」をアサザ基金収益事業の位置づけで継続します。

○ ホームページの運営

2012年度から特定非営利活動法人サービスグラントの支援を受けて進めてきた、アサザ基金のホームページがリニューアルします。（5月末）わかりやすく共感を得やすいサイトとなり、管理運営もしやすくなる予定です。

○ 会報の発行

会報を年3回発行し、アサザプロジェクトの最新の活動を紹介します。会員の皆様や関係者に配布します。（発行予定月は4月、8月、12月）

○ 視察、講演の受け入れ

アサザプロジェクトの活動をより多くの方々に理解していただくために、出来る限り視察や講演等を受け入れていきます。希望される方はお気軽に事務局にお問い合わせ下さい。HP上の視察ガイドラインもご参照下さい。

○ 県内外各地の活動との連携

霞ヶ浦の環境保全や地域振興、放射能汚染問題などを潮来ジャランボプロジェクト実行委員会、鹿嶋市まちづくり市民センター、菜の花プロジェクト、霞ヶ浦元気シンポ実行委員会、霞ヶ浦の再生を考える会、常総生協、茨城農民連、霞ヶ浦生態系研究所、NPO法人ラムサール・ネットワーク日本など、流域内外の様々な団体と連携しながら問題解決に取り組んでいきます。